

広島県支部の企画・運営により 高校生のツーバイフォーの建て方実習が行われる

7月26日～28日、広島市立広島工業高等学校において、ツーバイフォー工法の建築工事を体験する「枠組壁工法を用いて自分たちの手で建物を建ててみよう」プロジェクトの実習が行われました。この実習は、当協会広島県支部が「人手不足が深刻な県内の未来の人材を育てたい」と企画したものです。

実習は、同校の夏休み中のインターンシップとして実施され、進路に建築業界を希望している同校2年生15名が参加しました。3畳程度の平屋建て（約5㎡、切妻4寸）の構造躯体を3日かけて組み立てるという内容で、生徒たちは実習に先立ち、ツーバイフォー工法の基礎知識と実習中の安全対策などについての講義を受けたあと、校庭で壁組や小屋組等の実習に取り組みました。連日猛暑下ではありましたが、すべての作業がスケジュール通りに進みました。実習の様子は地元報道機関の取材を受け、新聞・テレビで報じられました。

終了後のアンケートでは、参加した生徒の皆さんから「完成した時の嬉しさは今までのなかで、最高のものでした。この体験を通じ、もっと建築を知りたいと思った」「ツーバイ

フォー工法の建物が強いことがよくわかった」「大工さんの作業が早く正確で、憧れになりました」「この体験でツーバイフォー工法に関わる仕事につきたいと思いました」等の感想が多くありました。

実習の運営は、講師やフレーマーの手配、資材の調達等が広島県支部の会員の連携により行われました。「実習開催という共通の目的に向かって、会員同士が協力し、絆を深めることができたことも大きな副産物でした」と、実習のとりまとめに尽力した広島県支部の事務局長は振り返りました。



■ 実習の様子

1日目 実習に先立ち、ツーバイフォー工法の基礎知識と実習中の安全対策などについての講義を受けた。フレーマーから足場作業の注意事項などについての説明を受け、床組作業を行った。



2日目 各チームで分担して構造用製材で枠組をつくり、構造用面材を張ってツーバイフォー工法の構造の基本となる壁を制作。4面の壁の組み立て作業を行った。



3日目 前日に立ち上げた壁の上で小屋組作業を行った。足場にのぼり、高所での作業となった。

